

米沢興譲館高校SSH通信

TGAL(Think Globally,Act Locally)サミット

令和4年2月12日(土) 1・2年「アントレプレナー」コースの生徒とコアSSHクラブの生徒を中心として「TGALサミット」を開催した。はじめに風力発電関連とバイオマス関連の企業プレゼンを視聴し、自分たちの研究成果発表をオンラインにて行った。

目 的

(1) 「アントレプレナー」コース生徒が取り組んできた地球規模の社会課題解決に向けた取組みに基づき、高校だけでなく大学や地域社会を巻き込みながら、地球規模の社会課題を全体で共有し、地域の課題とどのような共通性があり、地域の課題解決は地球規模の社会課題の解決とどのようなつながるのかを議論できる機会を創出する。このことにより、「アントレプレナー」コースの生徒だけでなく、連携した地域の様々な主体と、地球規模の社会課題は自身の身近なところにつながっており、自身の小さなアクションでも地域や地球規模の社会課題の解決に寄与できる気づきを生みだすことができる。

(2) 山形県置賜総合支庁「高校生と地域企業等の交流事業」の一環として実施し、地域の企業経営者の思いや地域で働く先輩の経験談等を通じて、地域の企業の魅力や地域の産業界で働くことの意義を伝える。

講 師

いちごECOエナジー株式会社 取締役 開発企画部長 池田 浩 氏(オンライン企業プレゼン)【風力発電関連】

リアクトバイオガス株式会社 代表取締役 片桐 健悦 氏(オンライン企業プレゼン)【バイオマス関連】

いちごECOエナジー株式会社を視聴して

2年理数探究科 女子

今回、私たちアントレプレナーコースの1・2年生はTGALサミットで風力発電についてのお話をお聞きしました。風力発電機の設置方法、設置条件、輸送方法について詳しく知ることができました。その中でも、ただでさえ大きい風力発電機をさらに大きなクレーンで部品一つずつを吊り下げて組み立てていることに驚きました。さらに、発電機同士が近すぎると干渉しあって発電機能が低下してしまうといった設置条件がありました。輸送方法については、発電機の一番長い部分をトラックで夜中に運ぶことがわかりました。私たちが寝ている間に、知らないところで社会をより良くするために働いている人がいることを再確認できました。実際に風力発電機を設置している動画を見ることができて面白かったです。また、米沢八幡原工業団地にいちごECOエナジー株式会社さんの風力発電機が設置されていると聞いて、私たちの身近な場所でも、太陽光発電だけでなく風力発電のような再生可能エネルギーが利用されていると新たな発見ができました。

バイオマス発電の将来性

2年理数探究科 男子

私は2月12日にTGALサミットに参加し、リアクトバイオガス株式会社様のバイオマス発電に関わるプレゼンを視聴しました。そこで感じたことは主に二つあります。一つ目は、地域との連携がとれた発電所であるということです。バイオマス発電には家畜排泄物などを燃料として用いますが、それらを近隣区域の農家から回収し、発電の過程で生産される有機肥料を無償で地域農家へ提供するという循環がなされていました。二つ目は、循環型社会の実現が意識されていたことです。前述したような地域との連携や、バイオマスという再生可能エネルギーを用いている点で、SDGsに直結するような環境への配慮だと思いました。今回、このような事業が身近に行われていることを知り、改めて未来の地球環境や持続可能な社会への意識が大切だと感じました。今ある地球の資源や環境を次世代に残すために、自分には何ができるかを考えていきたいと思います。



F Sを振り返って

1年探究科 女子

私たちはこの一年間、F Sコース別研修を通して、講義を受けたり企業見学に行ったりするなど、体験的な学びを行ってきた。それをもとに現状を把握・分析し、課題を決め、課題解決のための仮説を立てた。仮説を立証するためにデータを集め、解決策を考えた。解決策に説得力を持たせるための、確実なデータの収集、分析が難しかった。

二年生の発表を聞いて、私たち一年生との違いを様々な点から感じた。課題から対策を考えて、データをもとに立証するという探究活動を、深く行っていた。テーマの発想力にも驚いた。私たちも来年そうなるために、様々な学習を通して、判断力・思考力・表現力を身につけていきたい。それと同時に、周りを俯瞰して考える視野の広さを持って、物事を捉えていきたい。

